

これからはインフラ運用も「丸投げ」する時代に 「as a Service」で 中堅・中小のインフラ運用の難題を解く NTTデータルウィーブ×シスコの構想とは

ネットワーク構成が複雑化する中、セキュリティを保ちながら最適な運用を続けるのが困難になっている。中堅・中小企業を中心に生じている IT インフラの課題を解決するにはどうすればよいのだろうか。

インダストリー 4.0（第 4 次産業革命）が提唱されて 10 年以上が過ぎた今、製造業のみならず多くの産業分野で最新技術を取り入れたビジネス改革が求められている。その基礎となるのが IT インフラだ。

クラウドシフトが進んだことでシステムの運用形態が多様化し、サイバー攻撃が巧妙化する現状があり、IT 部門が考えるべきことは一気に増えた。多くの企業で、ビジネスを支える IT インフラの整備まで手が回っていないのが現状だ。インフラ技術が複雑化する中で特に人手不足が問題になりやすい中堅・中小企業では、次々と登場する数多くのセキュリティ対策からの取捨選択が難しいこと、最新技術採用後の運用検討の場面で体制維持が課題になるなど、インフラ検討や整備が後回しになっていることがある。



NTT データルウィーブ
三宅 信一郎氏

いかに手間をかけずに IT インフラを構築、運用するか。この問いに対して、NTT データルウィーブとシスコシステムズが協業して一つの解を提示する。

製品を組み合わせる 従来型ネットワークは次のフェーズに

アプリケーションレイヤーではクラウドシフトが進む一方で、ネットワークレイヤーでは今もなおスイッチやルーターなどのハードウェアを購入して、それらを組み合わせる環境を構築する物理をベースとした考え方が当たり前だと思われる。それが IT 部門の負担を増加させる原因にもなっている。

場所を制限しない働き方が当たり前となり、多様なクラウドサービスを使い分けて業務を進めるようになった今、そのような従来型のネットワーク環境は時代にそぐわない。こうしたことを背景にネットワークのクラウドシフトが進みつつあり、セキュリティも境界型の対策からゼロトラストベースへの移行が求められている。

NTT データルウィーブの三宅 信一郎氏（代表取締役社長）はシステム環境の変化と中堅・中小企業が抱くジレンマについて次のように語る。

「働き方が変わり、利用するデバイスやクラウドサービスが多様化している今、アプリケーションだけでなくビジネスを下支えする IT インフラも変革すべきときに来ています。ですが、インフラ技術が高度化、複雑化しているため多くの企業はそれに追いつけておらず、結果的に対応が後手になってい

ます。特に中堅・中小企業は人手不足が課題になりやすい
ため、できるだけ手間をかけずに運用したいというのが本音
でしょう」

なぜNTTデータルウィーブは シスコシステムズをパートナーに選んだのか

中堅・中小企業が抱くネットワークとセキュリティに関する
課題を同時に解決するために、NTT データルウィーブはシス
コシステムズと手を組んでフルスタック型マネージドサービ
スの準備を進めている。

安定的かつ堅牢（けんろう）なネットワークを実現するシ
スコシステムズの技術力とNTTデータルウィーブのシステム
インテグレーションの経験値を掛け合わせて「as a
Service」で提供する。就労環境やIT環境が大きく変化し
ている現在、両社が目指すのは時代にマッチしたITインフラ
とセキュリティを手軽に利用できるサービスだ。

シスコシステムズをパートナーに選んだ理由として、三宅
氏は次のように説明する。

「企業へのネットワーク提供において多数の実績を持ち、
クラウド管理型でのネットワークやセキュリティ商材を多数
ラインアップしていることがあります。これに加えて、クラウ
ドPBXの商材もあり、オフィスワークやテレワークにおける
ITインフラ環境構築に必要な技術と実績を網羅しているの
がシスコシステムズでした」（三宅氏）

VPN機器はサイバー攻撃者の格好の標的であり、特に対
策が手薄になりがちな中堅・中小企業を悩ませる問題になっ
ている。警察庁が2023年3月に発表した「令和4年にお
けるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」によれば
ランサムウェアの感染経路について102件の有効な回答が
あり、このうちVPN機器からの侵入が62%を占めた。だか
らこそ防御を強化すべきだが、脅威の情報を収集してVPN
を最新の状態に維持する人的リソースが不足して守るべ
き部分を守れていない。そもそもの問題は境界型防御で
脅威の侵入を防ごうとしていることだ。

シスコシステムズの石黒圭祐氏（執行役員 法人・SMB・
デジタル事業統括）は、同社の強みについて次のように語る。

「SASEによってネットワークとセキュリティの機能を一体
で利用でき、ゼロトラストアーキテクチャで社内と社外の境
界をなくした防御が可能になります。当社が強みとする



シスコシステムズ
石黒圭祐氏

SASEとゼロトラストセキュリティを用いた仕組みをプラッ
トフォーム化し、サービスとして提供することで両面の強化
が実現するのです」

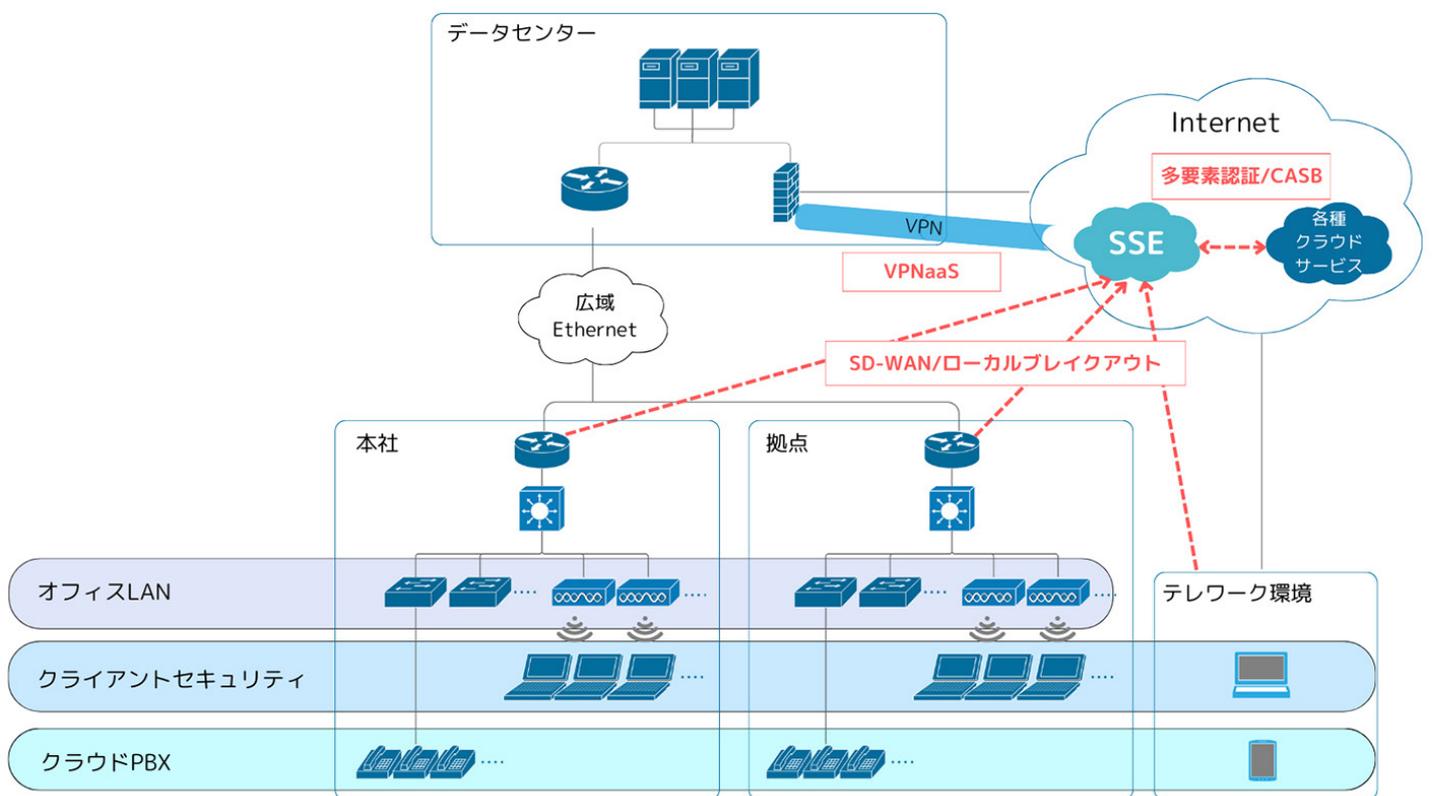
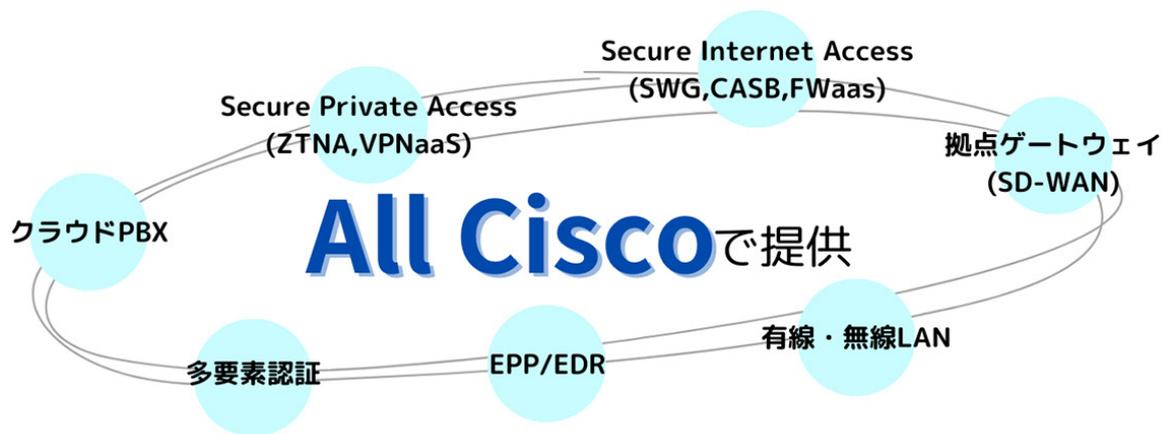
これまでNTTデータルウィーブはマルチベンダーとしてシ
スコシステムズの製品を販売していたが、より付加価値の高
いサービスを提供したいという思いから今回のサービス提
供に至ったという。

機器の購入も運用も不要 「インフラを手間なく利用したい」を実現する

ハイブリッドワークが当たり前になった現在、オフィス外か
らインターネットにどう接続するのかが問題だ。この課題を
解消するためにターンキー型SASEソリューション「Cisco
Secure Connect」を介することで、社内、社外を問わず
どこからでもクラウドサービスなどにセキュアにアクセスでき
る。ローカルブレイクアウトで通信するため通信帯域を圧迫
することもない。

また、シスコシステムズのクラウド型ネットワーク管理ソ
リューション「Cisco Meraki」で通信帯域を管理して社内、
社外に同一ポリシーを適用することで、効率的にセキュリ
ティを強化できる。マネージドサービスなので運用人員の確
保もハードウェアの購入も必要ない。ファームウェアの更新
や煩雑な設定作業も不要で、通信に障害が発生すると即座
にユーザーに通知される。ウイルスに感染した場合は該当端
末を自動的に隔離して被害を最小化する。

一番のメリットは、シスコシステムズの技術を基に大企業
で採用されているベストオブブリードの仕組みを中堅・中小



マネージドサービスの全体像（提供：NTT データルウィーブ）

企業でも手軽に利用できることだ。会計の観点では、「設備投資から利用」に転換することでオフバランス化できることもメリットの一つだ。

「この構成図を見ると簡単なことに見えるかもしれませんが、大企業の中にはSD-WANの選定に年単位の時間をかけ、SASE運用の専門部隊を組織するところもあります。このサービスならばVPNやSASE、CASBなどの製品選定プロセスも不要です。これらを考慮すると、対価以上の魅力を感じていただけるでしょう」（石黒氏）

サービスを通して コア業務に専念できる環境を提供

三宅氏は「もはや『モノ』に対してではなく『サービス』に対価を払うことは当たり前の時代になりました。今までできなかったことも、NTT データルウィーブに相談すれば実現できる。われわれはそのような存在になりたいと考えています。環境変化が激しいこの時代を生き抜くためにも、お客さまがコア業務に注力できるようにサービスの提供を通して支

援する考えです」とコメントする。

このマネージドサービスには、シスコシステムズが培ってきた技術力とシステムインテグレーターとしてのNTTデータルウィーブの強みが集積されている。どのような環境が最適なのか分からない、描くネットワーク環境をどのように実現すればいいのか分からない。そうした疑問を抱いている企業は、一度NTTデータルウィーブに相談してみてもいいだろうか。



●お問い合わせ

NTT データ ルウィーブ株式会社
IS ソリューション事業本部 ISS 営業部

Tel : 044-223-3763

E-mail : network@nttdata-luweave.com

HP : <https://network.nttdata-luweave.com>

ネットワークコンシェルジュで検索

※この冊子は、ITmedia エンタープライズ (<https://www.itmedia.co.jp/enterprise/>) に 2024 年 5 月に掲載されたコンテンツを再構成したものです。
<https://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/2405/09/news001.html>

copyright © ITmedia, Inc. All Rights Reserved.